



では
遠慮無く…ッ

ズッ

ズッ

ン!!

ズッ!!

妻が相手では
こんな初々しい
反応は見れない
からな

非常に
助かるよ
河々宮君

そんな…ッ
いきなり…ッ

やはり今回は
路線を変えて

陵辱色強めに
しようかと
思ってたね

ちょ…ッ
路線変更なら
ちゃんと
打ち合わせで
仰って下さい…!!

なあに今だって
打ち合わせの
ような物だろう?

ハッ
ハッ

ズン!!

ズン!!



ズッ

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

なんて...っ
勝手な...ッ

ちょ...ッ
あ...ッ
激し...ッ
先...生ッ

ギシッ！
あ...ッ
あ...ッ
あ...ッ

そろそろ
イかせて
もらうか

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

あ...ッ
あ...ッ
あ...ッ
あ...ッ

本当...に
勝手な
人ですね...ッ

まさか...
膣内に...ッ

あ...っ...ッ

はー！

はー！

よし
次はこれも
使用しようか

ほ…そんな物
入ら…

!?

ぬ

アッ!!

無理

ちゃほ

グッ

ニヤ

ちゃほ

ウ

ふふふ
思ってた以上に
初々しい反応で

高ぶりが
収まらない

イッ!!





処女だったのか？

不釣合な感度の高さ

初々しい
膣の締まりに

まさか
河々宮くん
キミ...

君のような魅力的な
女性なら
百戦錬磨の手練かと思
っていたが

全くもって
予想が外れたな

ギシ！

ギシ！

ギシ！

じぽ
じぽ

じぽ
じぽ

ギシ！





数時間後



また頼むよ
河々宮君

忘れない内に
執筆に
取り掛かろう

キミのお陰で
良いアイデアが
浮かんだよ